

㊤荒川放水路通水100周年記念事業

受賞機関 国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所
荒川放水路通水100周年記念事業実行委員会

キーワード 荒川、荒川放水路、旧岩淵水門、周年事業、地域連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

荒川放水路通水100周年を迎え、洪水対策の歴史を振り返りつつ、強靱で持続可能な地域の未来を目指した記念事業。100周年という年次だけでなく、そのプロセスを関係者や住民と共有し機運を盛り上げ、幅広い関係機関をまとめて関連イベントを実現させた点が評価された。

1. はじめに

荒川放水路は、洪水から大都市・東京を守るために、新たに人の手でつくった人工の河川である。大正13年(1924年)10月12日に執り行われた通水式から100年を迎えることを契機に、これまで荒川に関わってきたすべての方々への感謝の意を表すとともに、これからも安心して暮らしていける強靱で持続可能な地域として、より良い形で将来に引き継いでいくことを目指して、「荒川放水路通水100周年記念事業」を実施した。

2. 事業の概要

本事業の取組及び荒川放水路に対する理解と認知度の向上を図るには、ある程度時間を要することから、通水100周年にあたる令和6年10月12日の1000日前の令和4年1月16日より活動を開始した。本事業は国だけではなく、沿川2市7区(戸田市・川口市・板橋区・北区・足立区・葛飾区・墨田区・江戸川区・江東区)の首長及び埼玉県・東京都・荒川下流河川事務所で構成された、「荒川放水路通水100周年記念事業実行委員会」を組織して、ロゴマークの作成や「荒川放水路通水100周年行動宣言」を公表するなど、連携しながら事業を進めた。



荒川放水路サミット

3. 事業の成果

通水100周年を契機として、荒川放水路の建設背景や役割とともに流域治水の取組などについて、幅広い世代に向けて事業広報を展開した。

- ①若年層や女性をターゲットにした『るるぶ特別編集「荒川放水路」』を発行し、SNSも積極的に活用した。

- ②マスコミへの積極的な情報提供を行った。100周年という歴史的なキーワードに高い関心が寄せられ、結果、多くの媒体で記事や特集として取り上げられた。
- ③地域連携として、自治体・市民団体・博物館等と協力した広報活動を実施した。区報や花火大会等のイベントで紹介してもらうなど、コストを抑えつつ高い集客性や広報効果を発揮した。
- ④令和6年8月に旧岩淵水門(通称「赤水門」)が国の重要文化財に指定されたことで、高い注目を集め相乗効果を発揮した。



区報・花火大会チラシ等



旧岩淵水門

4. おわりに

これからも安心して暮らしていける強靱で持続可能な地域を目指し、より良い形で将来に引き継いでいくため、地域の安全・安心を守る荒川下流河川事務所の使命は、100年前と変わらず続いている。

近年では例のない豪雨が頻発し、河川管理者だけでは対応しきれない災害が増えつつある中、「流域治水」の取組のもと、流域の自治体をはじめとした関係行政・公共機関、地域の守り手となる建設業・建設関連業をはじめとした企業・団体、また、流域にお住まいの市民の皆さまなど、あらゆる関係者と協力して、地域の安全・安心を確保していきたい。